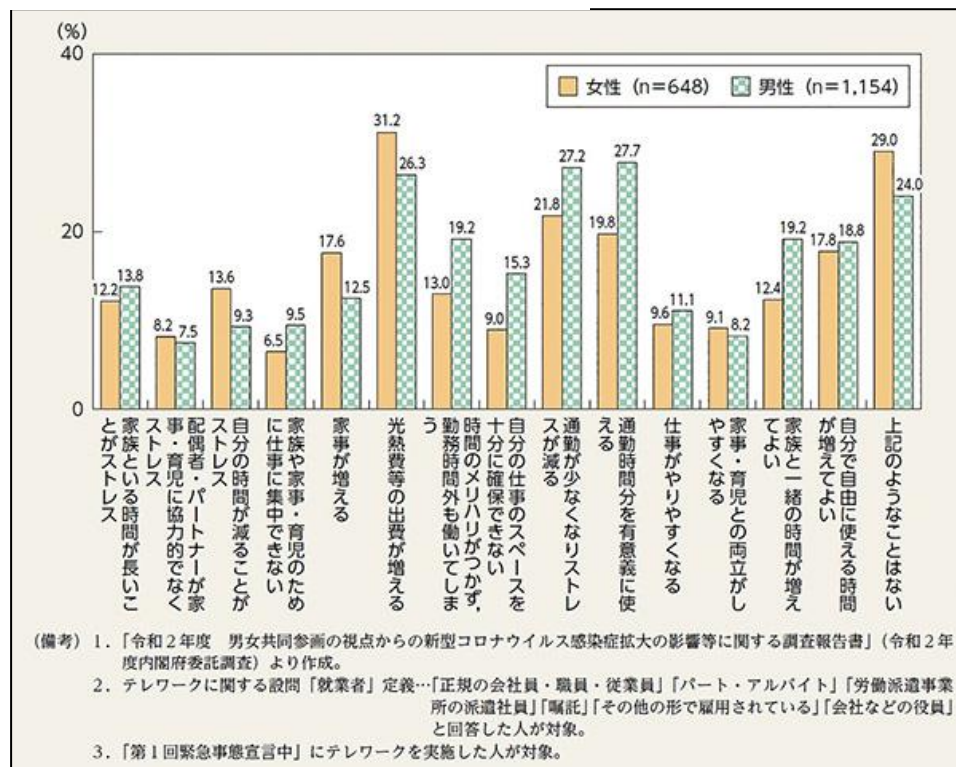


## 男女共同参画社会をつくる ～男女共同参画に関するQ&A～

Q 8 1 緊急事態宣言を境に、我が国では、多くの就業者が新しい働き方として、テレワークを経験することになり定着しつつあります。その実状を教えてください。

A 8 1 テレワークを経験して感じたこと (A図)

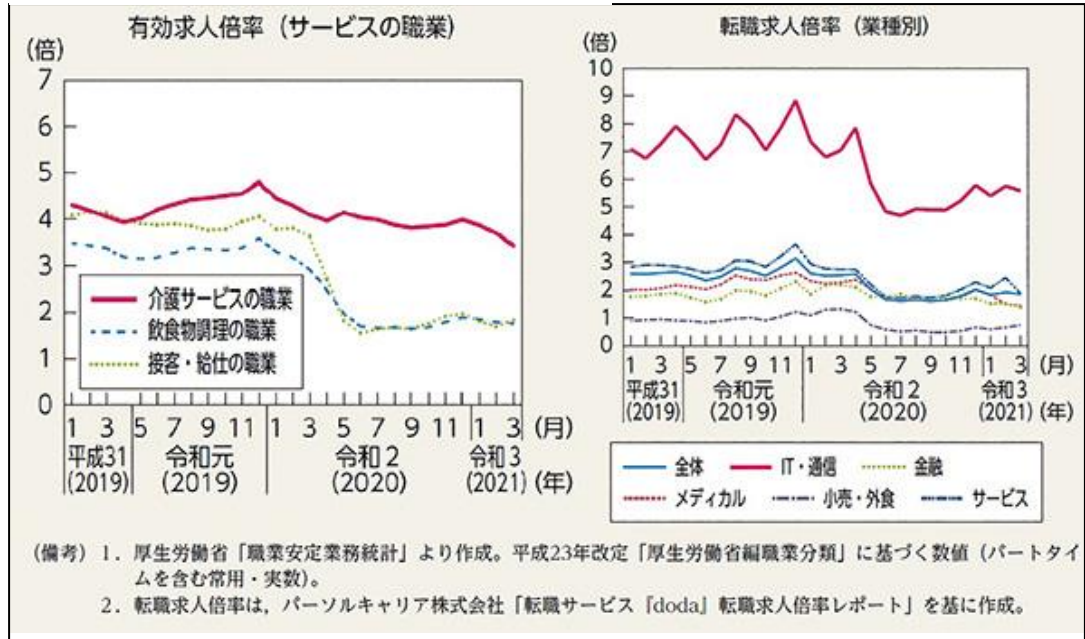
(A図) テレワークを経験した就業者



医療・福祉、情報通信業等は、コロナ下においても就業者数が増加しています。介護サービスの職業については、第1回緊急事態宣言後も有効求人倍率が3～4倍以上で推移しており、ニーズが高いです。また、IT関連の転職求人倍率も高く推移しています(B図)。今後、このようなニーズのある分野や成長分野等へのシフトが重要であり、そのための人材育成、マッチング、

勤務環境の改善等が必要になっています。

(B 図) 有効求人倍率・転職求人倍率



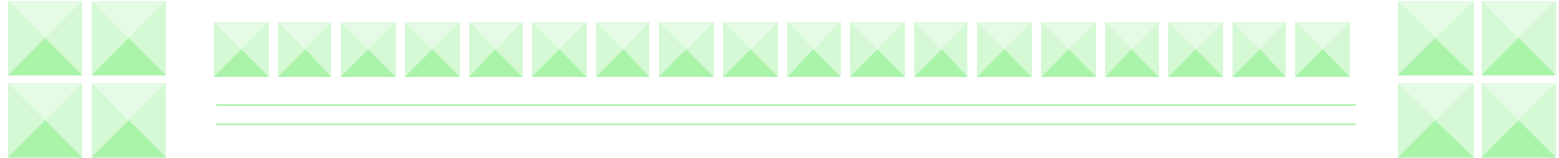
テレワークを経験して新しい生活を

1日の時間の使い方について、新型コロナウイルス感染拡大前と比較すると、男性の仕事時間が減少した分、育児時間が増加し、男性の育児参画が進んだように見えます。ただし、女性の育児時間も同様に増加しており、また家事時間については変化がないことから、女性が男性の2倍以上、家事・育児をしている傾向は、新型コロナウイルス感染拡大前後で変わりません (C 図)。

(C 図) 1日の時間の使い方

有業者全体 (仕事のある1日)		令和2(2020)年度 調査	令和元(2019)年度 調査	時間の増減
仕事時間	女性	7時間27分	7時間42分	-15分
	男性	8時間47分	9時間12分	-25分
家事時間	女性	1時間59分	2時間03分	-4分
	男性	0時間50分	0時間52分	-2分
育児時間	女性	1時間52分	1時間32分	+20分
	男性	0時間53分	0時間32分	+21分
介護時間	女性	0時間55分	1時間17分	-22分
	男性	0時間45分	1時間01分	-16分

(備考) 「令和2年度 男女共同参画の視点からの新型コロナウイルス感染症拡大の影響等に関する調査報告書」(令和2年度内閣府委託調査)より作成。



一方、新型コロナウイルス感染拡大前と比較して「夫」「夫と妻」の家事・育児の役割が増加した世帯の約42%が「夫婦の関係が良くなった」としており、男性の家事・育児参画は、良好な家族関係の構築のきっかけとなっています。

### 男女共同参画の未来について

新型コロナという未曾有の危機とそれに伴う経済社会の構造変化は、女性の地位向上を図るチャンスでもあります。

この流れを後押しするよう、時機を逸せず、ジェンダー視点を踏まえた政策を次々と打ち出す必要があり、そのためには、意思決定の場における女性の政治参画を強力に進めるそこにこそ、男女共同参画の未来があります。

資料出所 令和3年 内閣府男女共同参画局7月号

